

春季彼岸会修行



満堂になった彼岸会



第64号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号

Tel: 078-341-5949

3月に春のお彼岸を迎え、本願寺神戸別院では3月17日から23日までの一週間が春のお彼岸期間となった。各ご家庭へのお彼岸参りだけでなく、別院へお参りいただくこともあり、賑わいを見せる期間となった。

コロナ禍の頃と比べ、お参りを再開された方が増えただけでなく、訪問の際の感染へ警戒する重苦しい雰囲気も薄れ、かつてのお彼岸らしいお彼岸を取り戻しつつあるといえた。

お彼岸の期間には19日から21日にかけて本願寺神戸別院の本堂で『春季彼岸会』の法要が修行され、また中日の20日には『納骨者総追悼法要』も併修された。

この法要においても、コロナ禍以降、大きく減っていた参拝者数も昨年ごろから回復を見せ始め、中日には約100名の参拝となり、昨年からは約20名以上の増加となった。続々と参られる参拝者へ追加の椅子を準備する場面も見られ、コロナ禍からの回復が感じられる一幕となった。

『春季彼岸会』の法要は午後2時から喚鐘の音が本堂に鳴り響き、別院僧侶の結衆が外陣に入室した。続けて堂内に衆の音色が響き、輪番含む別院僧侶が内陣に入室し法要が始まった。

お勤めは3日間、19日には『仏説

観無量寿経』、20日には『仏説無量寿経』、21日には『仏説阿弥陀経』が用いられた。出勤僧侶は、マスクを取ったお勤めとなったため清々しい表情での読経であった。

法要後には、副輪番、そして輪番から挨拶を述べることもあったが、特に21日に挨拶を行った山内副輪番は3月末で退職することもあり、公の場で副輪番としてお話しする最後の機会となり、名残惜しいものとなった。

広島市の正覚寺から瀧淵良孝師を迎えてご法話いただいた。彼岸会に際し、先立たれた方が生まれてゆき、私たちもまた生まれてゆくお念仏の「みおしえ」を聞かせていただく得難い時間となった。

20日の法要の後には、お彼岸のお斎としてぼた餅を参拝の方々にお配りした。毎年恒例のぼた餅を受け取られた方々は、笑顔で別院を後にされた。

21日の山内副輪番の挨拶。



阪神・淡路大震災 物故者総追悼法要

震災より30年目を迎えた1月17日、本願寺神戸別院では『阪神・淡路大震災物故者総追悼法要』が修行された。

震災以降毎年修行されている『阪神・淡路大震災物故者総追悼法要』は今年で29回目となる。当日は110名が参拝された。

この法要は午前中には『帰敬式』が行われる。今年は10名のお申し込みをいただき、受式者の方々は本堂でおかみそり受け、法名をいただかれた。

午後2時になると『阪神・淡路大震災物故者総追悼法要』が始まる。奏楽員の奏でる楽の音色にあ



わせて輪番と別院僧侶が入室していった。

お勤めは『正信念仏偈』を用いる正信念仏偈作法で行われた。参拝の方もお経を唱える中、散華と焼香がおこなわれ、各々の哀悼の意をもって法要はしめやかに勤修された。

法要後は『1・17「いのち」を考える研修会』が開催され、法要の後には宗門関係学校より中学生から大学生まで5人の学生が作文の朗読を行った。

震災より30年ともなれば現在の学生に震災の経験をした者はいなくなってしまうが、多くの人が伝える震災の脅威と起こってしまった悲嘆は次の世代へと受け継がれているとわかる作文であった。

そして研修会の講師はラジオ界の生きる伝説と呼ばれる浜村淳氏であった。御年90歳を迎えた浜村氏は、震災当時の景色や人々の思いや働きを伝えた。崩れる建物、人々の叫び、その真つ只中を経験した浜村氏の言葉は、聞く人に重く響くとともに、心にはつきりと当時の光景を映し出した。

別院仏教婦人会

春季彼岸会
ばた餅のご接待

春季彼岸会期間中の3月20日(木)には、法要にご参拝された皆様へ神戸別院仏教婦人会の皆さまがご用意したばた餅を配布した。前日より仕込みを始め、準備したばた餅はご参拝の皆様より大変ご好評をいただいております。毎回楽しみにされ、法要にご参拝いただく方も多い。神戸別院仏教婦人会では夏の暁天講座での朝粥や、秋の彼岸会でのおはぎ、11月の報恩講でのお斎などご用意し、皆様の法要ご参拝をお待ちしている。



彼岸会にお供えされたばた餅

モダン寺土曜子ども会

春の遠足



子ども会遠足

5月17日、モダン寺土曜子ども会では春の遠足が開催した。今回の行き先は須磨シーワールド。参加者は子どもと保護者あわせて約30人で、懸念された雨はすぐに止み、とても賑やかな遠足となった。

遠足では様々な生き物との出会いが子どもたちを楽しませてくれたが、特に盛り上がったのはイルカやシャチのショーだった。カップを着けていてもなお濡れるほどの水しぶきを被ったが、子どもたちは大喜びで楽しんでおり、良い思い出の遠足となった。

兵庫・岡山テレホン法話集

「一人じゃない」

揖保郡太子町 善導寺

天野 真隆

衣替えの時、小さな可愛いマフラーとセーターを見つけました。それらは連れ合いが息子二歳の誕生日にプレゼントとして、夜を徹して編み上げたものです。

その編み物を手にしたとたん、私は亡き母のことを思い出しました。

八年前、五十三歳の時癌で往生しました。母は体型はぼっちやりにいて、すごく明るく、裏表のない、家族や友人に対しては相手のためになるとおもふことであれば見過ごすことが出来なくて、時にはズバツと物を言う人でしたが、私はそんな母が大好きでした。また母は大変器用な人で、服だけでなく、靴や財布に至るまで、何でもよく作ってくれました。

子どもの頃の私は、母の手作りの品が好きでいつも身につけていましたが、小学4年生の時、友人にからかわれて以来、一切身につけなくなりました。ですから、今となっては何一つ私の手元には、残っておりません。なぜ、一つでも残しておかなかったのか…と、後悔しています。

身につけなくなった時も、母は黙って何もいみせんでしたが、きつとさびしい思いをしていたと思います。今、二〇数年の時を経て、子どもの

ために嬉々として手を動かす連れ合いの姿に、やっと母の思いに気付かせてもらうことができました。

私は編み物は出来ませんので、その時まで全く気付いておりませんでした。一言で「編む」と言いますが色々な手順が必要であるということ、教えてもらいました。

一つは「糸の選択」です。糸選びのポイント、先ず糸の性質。その次に色合いです。着てくれる・身につけてくれるであろう人の肌合う物、そして似合う色む選ぶ必要があります。

二つは「編み方」です。編み方によって編み棒を交換したり、編む強さを変化させる。ことに幼児は成長が著しく、常にサイズを測りながら、ピタリになるように編み続けていき、サイズが合わなくなったときには、編み直しがきくようにしてあるのです。

三つは、作業時間です。育児。家事の合間をぬって、時間を作り出す工夫して、一編み、ひと編み、子どもの寝顔を見ながら、心を込めて編み上げていきます。

ある日、連れ合いが私に向かって「お母さん達の時代なら、手作りにするのは当たり前であつたかも、でも今は買った方が手間や材料費を考えるとねえ…」と言いながらも、さも嬉しうに我が子のためにとせつせと手を動かします。編み物に励む姿を見るにつけ、母なるが故に、子どもに対する思いや願い・慈しみの心が、形になって仕上げられ

ていたことを気付かされたのです。私に合わせ、私のために仕上げて下さったのはたつきこそが、「南無阿弥陀仏」でありましたと、気付かせて頂くことが出来ました。

阿弥陀如来は、浄土という世界に止まっておられるのではなく、いつも私のために、休むことなく日夜はたらい下さっています。そのはたらきの相（すがた）が私の口に「南無阿弥陀仏」と、こぼれ出て下さっています。ですから、お念仏は決して呪文などではありません。お念仏は、阿弥陀様の「私を一人ぼっちにしておくことが出来ない。捨てておくことが出来ない」という願い・誓いが言葉となって、現れ出て下さったものです。

この口に「南無阿弥陀仏」と出て下さる度に、私は決して一人でなかったと気付かせて頂き、日々を精一杯生き抜かせて頂きたいと思っています。



別院ホームページにて、兵庫教区青年僧侶の会で作られた3分程度の法話が配信されています。ご視聴ください。

※過去に配信されたご法話を編集し掲載いたしました。



モダン寺土曜仏教講座 今年は第二土曜日

本願寺神戸別院では、毎月第一土曜日の午後1時30分から仏教講座を開催しておりますが、今年度の開催は『第二土曜日』となり、「モダン寺第二土曜仏教講座」として開催いたします。今回の講師は全7回を通じて本願寺史料研究所上級研究員の岡村喜史氏をお招きし、「兵庫教区での真宗の伝播と発展」をテーマに、兵庫を中心とした地域での寺院の様子や蓮如上人の活動をご講義いただきます。2025年12月まで全7回。興味がある方はぜひ、足を運んでみてください。

各回 1,000円
(申込不要)

参加費

4月/5月/6月/7月/10月/11月/12月
第2土曜 13:30~15:30
※今年度は第1土曜から変更になりました

- | 第7回 | 第6回 | 第5回 | 第4回 | 第3回 | 第2回 | 第1回 |
|--------------|------------|----------------|---------|-----------|--------------|------------|
| 12月13日 ① | 11月8日 ① | 10月11日 ① | 7月12日 ① | 6月14日 ① | 5月10日 ① | 4月12日 ① |
| 江戸時代の真宗のひろがり | 石山合戦と摂津・播磨 | 英賀坊の創建と真宗のひろがり | 蓮如上人と播磨 | 蓮如上人の有馬湯治 | 覚如上人と兵庫教区の寺々 | 兵庫教区の寺院の諸相 |



講師
おかむら よしじ
岡村 喜史氏
本願寺史料研究所 上級研究員

別院令和大修復工事 今後の予定

令和大修復工事の進捗についてご報告いたします。前回の紙面掲載後、教区内寺院や別院門信徒様への懇志ご依頼について慎重に協議を進めてまいりました。そして令和7年1月20日、ご門主様のご認証を得て正式に入札手続きへと移行しました。

2月7日には、神戸市競争入札参加資格者名簿【格付A】に基づき、本願寺参与を考慮した4業者、現別院建設業者及び現建物管理業者を含む計6業者を選定。2月19日に現場説明会を開催し、3月14日の入札会の結果、施工業者は星光ビル管理株式会社に決定しました。工事は5月20日に着工し、令和8年3月中の引き渡しを予定しております。今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

退職

2025（令和7）年3月31日を以て山内理史副輪番、渡邊顯誓の2名が退職いたしました。長い間、お世話になりました。



新職員紹介

4月1日付で日高証知さん（奈良教区高市組称名寺）が神戸別院に着任いたしました。よろしく願います。



日高証知 さん



現場説明会の様子



本願寺神戸別院 2025年の常例法座

6月

竹内 英昭 師 姫路市教蓮寺

7月

松田 義量 師 相生市慈眼寺

8月

休 座

9月

井村 智仁 師 高砂市真浄寺

10月

四夷 法顕 師 西宮市信行寺

11月

長谷 都子 師 姫路市光明寺

12月

赤松 普宣 師 赤穂郡専稱寺

2025年度 本願寺神戸別院 法要行事予定

【恒例法要】

永代経法要	6月22日(日)	午後2時
暁天講座	8月 1日(金)～3日(日)	午前7時
孟蘭盆会	8月15日(金)	午後2時
秋季彼岸会	9月22日(月)～24日(水)	午後2時
報恩講法要	11月26日(水)～28日(金)	

日中:午前10時、逮夜:午後2時

除夜会	12月31日(水)	午後4時
元旦会	1月 1日(木)	午前7時

阪神・淡路大震災物故者総追悼法要

「いのち」を考える研修会 1月17日(木)

春季彼岸会	3月19日(木)～21日(土)	午後2時
※20日(金)は、納骨者総追悼法要を併修		

【日時勤行】

お晨朝	毎日 午前7時
-----	---------

【毎月の法座】

第二土曜仏教講座	第2土曜日	午後1時30分
常例法座	15日・16日	午後2時